



明るく 正しく 健やかに

寿都小学校 学校だより
令和5年度 第8号
令和5年11月30日発行

心の成長に寄り添いながら

校長 前田 敦子



雪の季節となり校庭の遊具が使えなくなっても、子供たちはそれぞれの楽しみ方で休み時間を過ごしています。竹馬や一輪車、体育館での鬼ごっこやボール遊び。図書ホールで本を読んだり、廊下のお気に入りの場所で友達とおしゃべりしたり、思い思いに過ごす時間です。

縦割りで交流することの多い寿都小学校では、休み時間も自然に学年が交じり合いながら遊んでいます。「校長先生、見て～」と、呼び止められ、竹馬や一輪車が数日で上達している低学年の姿にびっくりすることもあります。

各教科の学習でも、「〇年生に、紹介しよう」とか「〇年生を招待しよう」など、異学年との交流を目標にした学習もあります。

先月は、生活科で1年生を招待しての「おもちゃフェスティバル」に取り組んだ2年生。緊張しながらも、1年生にわかるように、お手本を見せたり言葉を選んだりしながらルールを説明していました。

4年生は3年生を招待し、総合的な学習で学んだ寿都の伝統文化や年中行事をもとにして「寿都ミニゲーム祭」を開催しました。「お祭りを熟知している寿都の子だなあ」と感心するぐらい、3年生を楽しませるたくさんの工夫が詰まった活動でした。

相手意識が明確になれば、ルールの難易度や説明の仕方など、どこをどのように伝えればいいのか考える力が高まります。



発達心理学的には、児童期になると、他者の視点から自分の思考や行動について考えることができるようになってきます。反面、相手が何を考えているのか、自分が心の中で何を思っているのかなど、お互いの気持ちを推し量ったりできるようになると、悩みも増えることとなります。

人間の感情には、「ワクワクするけど、不安」「怖いけれど、やってみたい」というように、ポジティブな気持ちと、ネガティブな気持ちを同時に感じるのがよくあります。2つ以上の気持ちが存在する「入り混じった感情」に気づくのは、10歳前後ぐらいからです。低学年くらいではその入り混じった感情に気づき始めても、言葉で表現することはできません。大人が「うれしい気持ちと悲しい気持ちも両方体験しているんだね」と言語化してあげることで、そういった感情があることを次第に理解していきます。

子供が成長していく中で、コミュニティの広がりにより、様々な感情を経験し、時には感情表出をまちがったりしながらも、経験を重ねながら適切な表現を身につけていきます。自分の気持ちを言葉にできたことを認め、心の成長に寄り添いながら、教育活動を推進していきます。

(参考文献:「よくわかる発達心理学」 法政大学文学部心理学科教授 渡辺弥生監修 ナツメ社)

【教育目標】

自分を伸ばし 広い心でがんばり通す 寿小の子

- ・よく考え、進んで学ぶ子 「知」
- ・明るく思いやりのある子 「徳」
- ・強く、たくましい子 「体」

【今年度の重点目標】

自分の言葉で伝える 自分らしく学ぶ

挑 戦

第2章

～自分を信じる力～

CS学校支援活動

4年生は、「寿都のお祭り」についての学習をしました。寿都神社の宮司さんから寿都の歴史や神社の歴史、お祭りの意味などについて詳しく話していただきました。また、子供たちの質問にもたいへん丁寧に答えていただき、子供たちも興味深く聞いていました。最後には、神輿も見せていただき、その迫力に驚いていました。さらに4年生は、その学びを活かして、3年生を招待しての「おまつりイベント」を開催しました。寿都の文化や歴史をミニゲームを通して学ぶことが出来るもので3年生も大満足の1日となりました。

3年生は、〇〇商店さんに行ってきました。社会科の学習でお店の人の工夫や努力について聞いてきました。実際にお店の中を見せてもらって、お客さんのために様々なことを考えていることに触れられました。質問もたくさんしてお店の方と良い交流の場となりました。

2年生は、「ホタテ」についての学習でした。ホタテの生態の学習、取り方、殻の開き方など子どもたちにとって初めて知ることをたくさん教えていただきました。最後には、おいしく食べさせていただきました。見て、さわって、食べて、ホタテ尽くしの豊かな体験ができました。

5・6年生は、ミシンのサポートをいただきました。扱い方が難しいミシンですから大変助かります。おかげでエプロン・バックが完成しました。

12月5日(火)には、6年生が「出張演奏会」で「ふれあ〜寿」を訪問する予定です。これは、6年生児童からの「演奏会がしたいです!」という声から動き出した活動です。子どもたちの「演奏を聞いてもらって、笑顔や元気を届けたい」という思いが大変素敵です。

私たち寿都小学校は、上記のCS学校支援活動で地域の方々からたくさんの支援を受けて子どもたちの豊かな体験・豊かな心の育成に支えられています。6年生の「笑顔や元気を届けたい!」は、そのささやかなお礼の気持ちから出たものです。学校と地域が互いに双方向で支え合ったり、元気や活力を与えあったり、そんな関係を私たちは目指しています。



寿都小実践発表会



11月17日(金)に本校で実践発表会を行い、管内の学校の先生方に多数参加していただきました。2年生の算数「かけ算」6年生国語「きつねの窓」を公開し、2年生は「九九をつくっていく」ことへの子どもたちの興味関心あふれる授業を、6年生は、物語の主題にせまる最高学年の協働的な学びの姿をそれぞれ見ていただきました。研究協議では多くの意見をいただきましたので、今後の実践に役立てていきます。2・6年生の頑張ってくれた子どもたちにも感謝です!



小・小連携研修会

11月10日(金)に潮路小学校の先生方と研修会を行いました。潮路小学校とは、修学旅行はもちろんのこと、見学の機会などで合同で学ぶことが多いです。先生方とも交流を深め、寿都中学校では1つになる子どもたちの学びについて深め合う良い機会となりました。



第2回いじめ把握のためのアンケート結果より

いじめとは、「児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）で、その行為の対象になった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義されております。

今回実施した第2回目のアンケート及び教育相談で、「4月から現在に至るまで、嫌な思いをしたことがある」と回答した子供が22名いました。アンケート後、個別に話を聞いたり、教育相談をしたりするなどして解消してきました。その中で、今も気になっているなという件が11件ありました。内容は、「避けているように感じる」「悪口を言われる」「注意しても無視される」「言葉がきつい」などです。

いじめについては、学校として積極的に認知し、早期解決に努めております。今後も、教職員全員で子供たちから発信されている小さなサインを見逃さないようにしていきます。ご家庭でもお子様の様子で気になることがありましたら、遠慮なく学校へご連絡下さい。ご理解とご協力をお願いいたします。

近年、SNSに起因して児童生徒が犯罪の加害者や被害者になる事例が増加しております。北海道教育庁 学校教育局生徒指導・学校安全課ホームページに、インターネットトラブルに関する情報を集めた「STOP SNS Troubleポータルサイト」(右QRコード)が開設されました児童生徒のSNSの利用に起因する犯罪の加害及び被害の未然防止の参考になさってください。



児童会「イネ」を集めようプロジェクト



10月30日(月)～11月24日(金)の期間で、書記局企画のイネを集めようプロジェクトを行っていました。学年問わず、学校内で起きた【イネ】と思った出来事を書いて、学級ごとに玄関にはり出しています。子どもたちは友達のよさを本当によく見てくれています。【イネ】の広がりが、子どもたちの関係性をいい方向に育み、学校全体を温かくしてくれます。いじめや嫌がらせの未然の防止効果としても大きいです。



12月給食指導

本校、栄養教諭による給食指導が12月全学年であります。
1・2年生は「牛乳の効力」3・4年生は「お米（新米・寿都米）」5・6年生は「まごわやさしい」をテーマにしています。子どもたちの給食への関心はかなり高く毎月発行の給食だよりをよく見ています。きっとこの時間も楽しく学んでくれることでしょう。



個人懇談よろしくお願ひします

12月11日(月)～13日(水)まで個人懇談です。保護者の方々ともどもたちの学校生活・日常について忌憚なくお話しできればと思います。お渡しする单元テストの結果もご参考になさってください。お待ちしております。(今回は、希望制ですので单元テストの結果は来られない方には後日、お渡します)

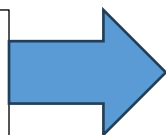
コラムスマイル

レジリエンスとは、「ストレスやプレッシャーから回復するための力」



5人のサポーターを思い浮かべる⇒あなたの心が折れないように支えてくれる

信頼できる、困った時に力になってくれるサポーターの存在は、逆境に直面した時、大きな力となります。そんなサポーターを右の観点で5人思い浮かべてみましょう。



- 【助力】困難に直面した時に助けてくれる
- 【情報】必要な情報を提供してくれる
- 【助言】役に立つアドバイスをしてくれる
- 【親密】一緒にいるだけで心が安らぎ信頼できる

